

江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・親泊素子

はじめに

オバマ政権下でアメリカ国立公園局は二二カ所の多様な遺産を国立公園システムに加えた。その中でも際立つのが負の遺産である。

一六年にはアメリカ国立公園局の生誕一〇〇周年を祝い、指定の動きは加速した。今回はアメリカの負の遺産について考えてみたい。

パールハーバーナショナル・メモリアル
(Pearl Harbor National Memorial)

パールハーバーナショナル・メモリアルは、一九四一年十二月七日の真珠湾攻撃により沈没した戦艦アリゾナ、オクラハマ、ユタやその関連施設と、その追悼で建設されたアリゾナ記念館と付属ビジターセンターから構成されている。この攻撃で、戦艦アリゾナ乗組員一、二七七名の命が失われ、今なお約九〇〇人の遺体が沈没した戦艦に残されている。アリゾナ記念館はその海上に浮くように建てられた白亜の慰霊廟である。アリゾナ記念館の内部の壁には亡くなった乗組員全員の名前が刻まれている。一九八〇年から公園局の所管

となつて、この場所は二〇一九年三月に「太平洋における第二次世界大戦武勲国立史跡」として再指定された。また、パールハーバー歴史地区内には公園局の所管ではないが、戦艦ミズーリ (USS Missouri) も設置されている。このミズーリは一九四四年六月にアメリカ海軍最後の戦艦として就役し、その後は太平洋海域に進出し、硫黄島攻略作戦にも参加、一九四五年三月には沖縄上陸作戦の支援と空母の護衛にもあたった。さらに日本が一九四五年九月二日に降伏文書の調印を行った場所がミズーリの甲板であった。このミズーリは一九九九年にミズーリ保存協会の努力によりパールハーバーで一般公開されるようになったが、当時、国立公園局は第二次大戦の開戦と終戦の遺産とが隣りあわせの形で公開されることに抵抗があったようである。しかしミズーリはアメ

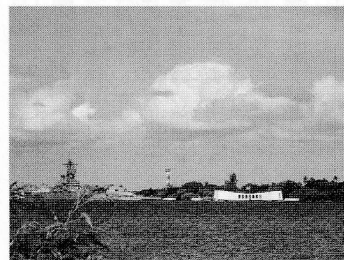
リカ最後の海軍の戦艦であり、日本の降伏文書の調印がなされた記念の戦艦として貴重であるとの理由から目立たない形で設置された。



アリゾナ記念館内部

このパールハーバーナショナル・メモリアルをアメリカ人ガイドの案内で歩くと、真珠湾攻撃からアメリカの第二次世界大戦への参戦、そしてこの真珠湾攻撃の屈辱から立ち直り、戦艦ミズーリの甲板上で日本に降伏文書を調印させ、最後はみごとに勝利をおさめたアメリカの強さと誇らしさが解説される。ある時、日系アメリカ人の老ガイドが日本人観光客に熱弁をふるっている光景に出くわした。彼が力説していたのは真珠湾攻撃直後に多くの日系人が連行され強制収容された悲劇についてであった。さらに、ミズーリの甲板

負の遺産解説



アリゾナ記念館(右)と戦艦ミズーリ

で彼が語ったことは、このミズーリに大胆にも特攻を試みた若き日本人特攻隊員についてであった。アメリカ人ガイドも日系人老ガイドのどちらも自国民の悲劇について力説していた。攻撃した側もされた側も、まさに両国民にとってこの場所は負の遺産である。しかし、その当時の人々にとっては、最初から負の遺産をつくりだそうとして起こした行為ではなかった。あとになってそれが負の遺産として判断されたのである。だが、立つ位置によってはその評価が割れる場合もある。これが負の遺産の難しさである。

ホノウリウリ国立歴史地区

(Honolulu National Historic Site)

オアフ島クニア近くにあるホノウリウリ日系人収容所跡地は二〇一五年二月に国立歴史地区として指定された。この歴史地区は第二次世界大戦中のハワイにおける収容所の中で最も大きく、約四、〇〇〇人もの民間人および戦争捕虜が長期間収容されていた。一九四三年に開設されたこの場所は、湿気と暑さと大量の蚊に悩まされ、「地獄谷」と呼ばれるほどの過酷

な環境だった。日系社会のリーダーたちは日本への忠誠心が強いとみなされ連行され、戦争捕虜と共にここに長期強制収容された。オバマ大統領は「戦時での公民権のよろさを浮き彫りにするために、この指定は必要である」と述べた。パールハーバーの老ガイドもこのことを言いたかったに違いない。

マンハッタン計画国立歴史公園

(Manhattan Project Historical Park)

このマンハッタン計画は第二次大戦中に進められたアメリカの原爆開発計画で、その名前は事務所がニューヨークにおかれたことに由来している。しかし、この歴史公園は、原爆の設計、ウラン濃縮、ブルトニウム生産を実際に行ったニューメキシコ州ロス・アラモス、ワシントン州ハンフォード、そしてテネシー州オークリッジの関連三施設がエネルギー省との共同所管で二〇一五年一月に指定されたのである。昨年の二〇二〇年に公園局は広島と長崎に原爆投下がなされて七十五年という節目にこのマンハッタン計画歴史公園とつなげて、世界の平和を祈るイベントを開催した。そのイベントでは、

マンハッタン計画から原爆投下に至った事実が年代順に解説されていたが、この内容は原爆開発が多くの犠牲者を生む悲劇を招いたが、これによって戦争が終結したという形で結ばれていた。しかし、この原爆投下と終戦との因果関係については学者の意見が分かれているところである。このイベントは世界の平和を願い、その尊さを確認するために実施されたものではあるが、やはりそのとらえ方や解釈は自分の立つ位置によって違ってくるものだ。

おわりに

負の遺産訪問は「悲しみのツーリズム」とも呼ばれ、観光客にとってはマイナスの気持ちに陥りがちな暗いイメージがある。しかし、国立公園局は、負の遺産を含むアメリカの多様な自然、歴史、文化遺産を国立公園システムの中に歴史地区、メモリアル、モニュメント等として取り込み、アメリカが最もこだわる「自由」「平等」「人権」といった人間の普遍的価値を人々に伝えていこうとしている。国立公園局の関係者は、「負

の遺産はいわば、アメリカの『恥の文化』ともいえる場所です、不名誉な事実を世にさらすことは勇気がいる。だからこそこういった過去の人間の過ちに真摯に向き合い、道徳の勘を取り戻すことが大切ではないか」と述べていた。負の遺産は記憶にとどめておくべき被害や災害などを風化させないために、それを教育的、道徳的な形に高めて人々に理解させる大事な役割をもっている。しかし一方、負の遺産についての解釈は誰がいつそれをどう評価するかで変わってくるという危うさも含んでいる。それを踏まえて、アメリカ国立公園局が積極的な取り組みを始めた負の遺産の指定とその管理について今後も注目していきたい。

主な参考文献：

1. NPS.gov, Homepage (U.S. National Park Service: www.nps.gov).
2. 可知 晃「戦艦ミズーリに突入した零戦」(光人社、二〇一一年)

親泊 素子 ● おやどまり もとこ

米ウィスコンシン大学大学院博士課程修了。国立公園協会研究センター長等を経て、一九九八年江戸川大学教授。二〇一七年から江戸川大学国立公園研究所客員教授。環境政治学専攻。